JA青年の主張

第３回

新規就農
～営業職から農業へ、女性だからこその想い～

熊本県・JA 鹿本青年部 田原支部
原口（はらぐち） 美季（みき）

1995年、国内でのスイカ生産量１位を誇る熊本県植木町に、５姉妹の３女として生まれた。体を動かすのが好きで、小学３年生から空手道をはじめ、学生時代は空手道部に所属した。県外の大学でスポーツ学科を専攻しスポーツに携わる仕事をしていきたいと思っていたが、ふと地元に帰ることを決意する。地元の農業資材を取り扱う会社の営業職として就職するも、女性という立場だけで仕事を制限されることがしばしばあった。

そんな日常の中で、営業先の農家さんから、農業の話を聞いたり、実際に畑へ行き野菜や果物が育っている姿をみて農業に興味を持つようになる。特に、収穫したての野菜や果物が新鮮でおいしかったことが印象に残っている。そして、熱心に仕事に取り組む女性の姿がとても輝いて見えた。農業という仕事で活躍する女性を目の前に、私の農業に対する気持ちは次第に大きくなり、それと同時に自分の手で栽培してみたいと考えるようになった。

そこで、地元の生産者の方からハウスを貸してもらいスイカの作付けを実際にすることに。仕事の休みを利用しての作業はとても大変だったが、それ以上に楽しみの方が大きく、スイカ栽培を本業にしたいと思うようになった。しかし、周囲からは、「女性一人でできるわけがない」

と反対の声ばかり。負けず嫌いの私はその言葉にがぜん前向きになり、「絶対にやってみせる」と決意し、３年勤めた会社を退職。しばらくは近所のスイカ農家の手伝いをさせてもらいながら仕事を覚え、新規就農の情報収集を始めた。行政からの声掛けもあって、空いている畑を見つけることができ、私の女性一人農業がスタートした。

畑にいる女性は輝いて見えた

はじめはわからないことばかりで、まずは農家にとって一番身近な存在であるJAに行き、営農に関すること、品種の選定や栽培技術指導、生産物の販売を通じ地域農業の支援をコーディネートしてくれる営農指導員に相談した。親身になってアドバイスをくれる指導員やライフアドバイザーとのつながりで、就農当初の不安もなくなり、日々の農作業も順調に進んでいる。

就農して１年が過ぎようとしたころ、ライフアドバイザーの紹介で地元の青年部への勧誘があった。話を聞いてみると男性ばかりの組織で、入部するべきかとても悩んだ。青年部という名前からして、女性の私でも入れるのか、入っている女性はいるのか、そんな不安がありつつも、やはり一人で農業をしているからこそ、いろんな話を聞きたい、地元の若手農業者との交流ができるならそれがいいと思い入部することに。

青年部と顔合わせしたとき、女性の入部という前例がなかったにもかかわらず、地元の青年部は私の入部を快く受け入れてくれた。青年部での活動に参加し、盟友から様々なことを教わり、人手が必要な時には農作業を協力してもらうなど、青年部に入ったことで、一人ではできなかったこともできるようになり、現在では面積を増やして栽培に取り組んでいる。

全国でも一人農業、そして青年部に加入する女性は珍しい。実際に地

女性一人農業には青年部の存在が大きい

元のJA鹿本の青年部に所属している女性は私だけ、また熊本県でもごくわずか。女性だから農業という仕事を本業にできないと思う人もなかにはいるのではないか。もちろんJA、行政、盟友の力を借りなければできないこともある。しかし生産者同士、お互いに協力しながら、時にはライバルになりながらも切磋琢磨できるのが農業の醍醐味である。

農業は私たちの生活を支える「国消国産」「地産地消」の要だ。熊本県は野菜・果樹・畜産など多彩な農業を展開する全国屈指の農業県だが、農業従事者の高齢化や人口減少により、耕作放棄地が増加している。それにより害獣被害が年々増えてきており、作物への被害も大きい。また天候や市場の影響も大きく、価格転嫁の難しさも課題だ。ここ数年、物価高騰が続き農業資材も上がっている。

これらの課題を解決していくには、農業という仕事を多くの人に知ってもらう必要がある。現在、SNSを活用している農業従事者も多い。農業の魅力や仕事風景を見てもらう１つの手段として活用することで、全世界の幅広い年代の方に農業を知ってもらうツールになっている。私たちの活動が少しでも「国消国産」「地産地消」の理解を広げる一助になればと願う。

私が所属している青年部では、食育活動として、地元の小学３年生とスイカ作り、５年生とはお米を作っている。私が小学生のころも同じように食育活動が行われていた。自分たちで作物を育てて収穫し、そして消費する。生きるために欠かせない食について学べる１つの大事な活動だ。小学生のころはまだ、農業の仕事についてわからなくてもいい。しかし時がたった時に、食育活動を思い出してほしい。そこで経験したこ

とは、きっと農業の魅力を少しでも気づかせてくれるはずだ。また、輸入に頼らず、国内で食料を確保する大切さや品質の安全性を知るきっかけにもなる。

農業は女性でも活躍できる職業だと伝えたい

個人ではなかなか行動できない食育活動は、組織だからこそできることでもある。そんな活動が今もこうして受け継がれているのは、とても大切なことで、今後も守っていかなければならないことだと思う。この食育活動、小学校だけにとどまらず、中学校や高校、大学とも食農教育に取り組み、就農したい人たちへの農業体験を開催していけたら、もっと身近に農業を感じられるのではないだろうか。そういった取組みを地元の学校、そしてJAと連携していき、そうすることで、若手でも女性でも農業はできるのだということを感じてもらえる場作りにもなると思っている。

男女関係なく、農業に興味を持っている人たち、農業を始めたい人たち、迷っている人たちの後押しができるように、私たち青年部盟友は未来の農業と国民の食を守るために活動を続けなければならないのだ。

国民の食を支える私たちの仕事、こんなに素晴らしい、奥深い農業を、私は誇りに思う。いつしか皆様の食卓に私の育てたスイカが選ばれ、皆が笑顔になれる、そんな熊本の生産者になり、女性でも活躍できる職業だと、私は胸を張ってこれからも農業を続けていく。そして、私の経験を多くの人に伝えていき、多くの仲間が増えることを期待したい。

プロフィール
原口美季　大学を卒業後、地元の営業職に就職。３年勤めたのち退職し、2021年より就農。JA熊本県青壮年部大会最優秀賞、JA九州・沖縄地区青年大会最優秀賞を受賞。